

## 【インドネシア】2020年1月から6月までの出願統計の公表等について

2020年7月14日

ジェトロ・シンガポール事務所

インドネシア知財総局 (DGIP) のフレディ長官は、7日、DGIP が受け付けた2020年1月から6月までの産業財産権出願が、コロナ禍の影響にもかかわらず、前年同期に比べて顕著に増加し、42,501件だったと発表した。このうち、商標については、2019年の約33,500件から2020年は約35,900件に増加したと説明 (下記 URL1 参照)。これに対し、知財サイトの Hukum Online (URL2 参照) では、以下のような、より具体的な数値を報告している (増減率はJETROによる計算)。

	(2020年1月-6月)	(2019年1-6月)	(増減率)
特許：	3,969	4,801	-17.3%
意匠：	1,810	1,941	-6.7%
商標：	35,980	33,543	+7.3%
合計：	42,501	40,961	+3.8%

なお、インドネシアの2017年から2018年の出願増減率 (WIPO 統計に基づく) は特許+4.8%、意匠+4.3%、商標+9.7%であるので、コロナ前の増減傾向と比べるといずれのカテゴリも出願が減速している可能性があるが、外出制限による一時的な影響であるのかは、今後の統計を見極める必要があると考えられる。

また、DGIP の協力・活用局の Silitonga 局長は、8日、ASEAN の知財協力ワーキンググループ会合 (AWGIPC) のオンライン会合において、DGIP のオンライン勤務状況について説明した (URL3 参照)。これによると、DGIP に出勤して仕事をしているのは、若手特許審査官のうち25%、商標審査官のうち35%、意匠審査官のうち50%にとどまる。他方、DGIP はベテラン審査官については、出勤して仕事をしよう求めているとのこと。出願システムは昨年8月に電子化され、今年5月にはその他の書類もオンラインで提出できる「バーチャル窓口」が設置されたことに伴い、出願件数も伸びているとの報告がなされた。

情報公開日

2020年7月13日

URL 等

(URL1)

<https://dgip.go.id/liputan-seluruhnya>

(URL2)

<https://www.hukumonline.com/berita/baca/lt5f0be4c5c2e52/pandemi-covid-19--pelaku-usaha-didorong-daftar-kekayaan-intelektual-secara-online>

(URL3)

<https://id-id.facebook.com/DJKI.Indonesia/photos/a.507684035911590/3609820825697880/?type=3&theater>

以上

本内容は、日本貿易振興機構が独自に入手している情報に基づくものであり、その後の状況などによって変わる場合があります。また、掲載した情報・コメントは当該機構の判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこの通りであることを保証するものではないことを予めお断りします。